

## 6mの運用で筆者が留意していること

6mで他のバンドとは多少異なる運用習慣があるのは、Magic Bandと言われる様に、いつ世界中が聞こえるか、また直ぐに落ちてしまうかもしれない6mの伝播特性の影響が強いからだろうと考えています。  
短時間に多くの局が交信を成立させられるように、また種々の目的で運用されている局同士が邪魔しあわないようにとの配慮からできてきたのだと思います。  
また、開けてない時の6mはラグチューバンドでもあり、「59、QSLはJARL、さよなら」式のQSOは、あまり好まれません。  
このあたりの切替、いわゆるTPO重視もこのバンドの特徴だと思います。

ちょっとどうかなという事柄を運用しながら別項でぼやいていましたが、ネタも尽きてきたので、以下に考え方を整理してみました。

### 1 自分の交信が他局のチャンスを奪っているということを意識する。

- 多数の局が出ているときはショートQSOが基本  
パイル時に呼んでおいてコールサインを聞くは論外、漢字解釈などは不用  
カードの話も原則無用(出さない局は約束しても出さないから)
- コールサインが確認できたらレポートを先に送る これで交信成立
- リストQSOは時間の無駄なのでやらない  
1局ずつ交信したほうが早し、呼んだ側を長時間拘束することになる  
重なった局のコールサインをメモするに留め、前の交信が終わらたら呼ぶ
- 辛づるQSOも交代の時間が無駄になるのでやらない
- 開けているとき、運用局数の多い地域からはCQを出さないか、近隣局に抑圧を与えないよう混んだ周波数付近は避ける
- その周波数に聞こえない局が出ている場合があるので、ワッチだけでなく送信してのチェックは必須
- HFで多く行われている各種アワードのアナウンスは求められない限り不用
- 伝播状況によって送信出力は必要な範囲に低減する
- 近隣局に抑圧を与えないよう、高出力での長時間運用はしない
- 広がった汚い電波を出さないように、常に気を配る
- 聞こえなければ呼ばない
- 聞こえていても、他局特に自局より設備の良い局が飛んでない場合は、無理に重なって呼ばず、できるだけ自局付近にパスが来たときに呼ぶ
- コールバックが判らなくなるから呼び倒さない 1コールが基本
- 応答はフルコールで サフィックスだけだと聞き返す時間が無駄
- 「私でいいですか？」も運用規則違反なので、応答が確認できるまでワッチ
- CWのパイル中に「？」は打たない もう少し聞いていれば相手は判る
- 必要事項を最小の言葉で確実に伝える練習と実践  
例「QSLカードは島根JARLビューローでご交換よろしく申し上げます」

↓  
「QSLはビューローに送ります」で十分通じる

### 2 目的の違う局が気持ちよく運用できる様、周波数の住分けを意識する。

- 突発的に世界中が聞こえる可能性があるなので、国内QSOはDXウインドウ(50.08~50.15付近)を避ける (6mでは国内QSOはDXとは言いません)  
50.15付近より下は空いているのではなく、海外局も空けています
- 50.15~50.18付近は国内遠距離向け交信を目的とする局が出てくるので、弱い信号には特に注意し、山上等の移動では対応可能なアンテナを使用する
- 50.20前後から上は移動局や比較的近距离(Esは別)の局が多く出てくる
- 50.25~50.30付近はラグチューと混信を避けた長距離狙いの移動局が混在することが多い
- 50.30から上はデータモードと混信を避けた遠距離狙いの局がでてくる
- AM局との交信は50.50~50.70付近
- 常置(設置)場所でのCQは末尾0および5kHzの周波数で行う

- 5kHzステップはVU帯の習慣だが、一定間隔で並ぶことで混信を避けたいうえで周波数を無駄なく使うことにもなる
- 移動局が中間の周波数を利用すれば混信を避けやすいという利点もある
- SSB/CW/AMはその周波数でモードを変えて交信する
  - 現状の6mで混在は普通のこと、CWが邪魔というような意識はない
  - AMの場合はLSB側の混信には注意が必要なので混雑時を避け、長時間の場合はAM局の多い50.50以上にQSYする
  - デジタルモード運用で使われる周波数は避ける
- 50.276 JT65など 耳で聞こえない信号でも呼出や交信中の場合がある
- 50.313 FT8など Msなど突発的な短時間オープンがある

余談ですが和文CW局がDXウインドウに出てきたことが何回かあります。法令上の問題はありませんが、まず応答は得られないのではないのでしょうか。最近HFからの影響が強くなり、5kHzごとの運用習慣も崩れ始めています。

6mが賑わうのは嬉しいことですが、6m常在局の割合が少なくなり、ワッチしていれば運用習慣が見えてくるとは言い難くなっています。そのため変な習慣のバンドとも言われる訳ですが、改めて見れば、どこのバンドでも共通のマナー・気遣いの範疇の話が大半です。

6mには、まだ良い習慣が残っていることに感謝し、今後も気持ちよく運用できることを願ってやみません。

de JA1VZV  
(C) 2018. 2. 12改定  
配布可・無断改変不可